

『学級経営』

「ずるいことが大嫌い。人を傷つけるような言葉や行動は、見逃しません。がっちり指導します。先生は、普段はとても優しいです。この学校の中で一番優しい先生だと思っています。でも、怒る時はとても怖いです。たたいたり蹴ったりすることは絶対にありませんから安心してください。ケンカなどのトラブルは、関係する人の話をきちんと聞いてから指導します。その日の内に解決して、どの人もスッキリした気持ちで帰ってもらいます」

これは、私が、最後に（今から20年程前）受け持った学級の子も達（3年生：40名）に、一番初めに話した内容です。

新学期、受け持つ子ども達との最初の出会いで、「担任がどんな考えを持っているのか。この1年、何をやるつもりなのか。何より、担任が“どんな人間なのか”」を、それなりに（できればきちんと）わかってもらうことがとても大事です。

長い話は厳禁。できるだけわかりやすく、そしてコンパクトに。ゆっくり、はっきり、通る声で、強弱もつけながら話します。「うん。なるほど。そうなんだ」と思ってもらえることが重要です。そして、「有言実行」を徹底します。

タイミング良く、次の授業時間の初めで、私が試される場面が生じました。「みんな、座って待っていて、いいね」と思っていたら、一人いないのです。「〇〇くん、どうしたかな？」と聞いても、「わかりません」という反応。まもなく、その子は、教室後ろの入り口から、「すみません」という様子もなく入り、そのまま自分の席に行こうとしました。私のセンサーが即座に反応しました。

命にかかわる「待たなし」の場面を除いて、よほどのことでない限り、私は怒鳴らないことにしています。「これは、まずいな」という行動に遭遇した場合、黙ってその子に向かって指をさすことが多いです。まず、周囲の子どもが、担任の行動に気づきます。「これから、何かが起こるぞ」と。やがて、当の本人も気づきます。自分に、担任の人差し指が、的を射るように向かってきていることを。

「〇〇くん、ちょっと来てください」と手招きしました。この時点で、彼の表情に緊張が走ります。「なぜ、呼ばれたか、わかりますか？」「はい」「では、なぜなのか、言ってみてください」彼の説明が始まります。「なるほど、それで遅れたんですね」「君のその行動について、もう一度考えてみてください」結果、彼は、自己中心的な行動で授業に

遅れたことに気づきました。ちゃんと反省している態度がみられたので、「そうか。では、次から気をつけましょう」と伝え、席に戻しました。

この指導により、「時間を守って行動することの大切さ」を当人だけでなく、学級全員の子どもも気づき、学ぶことになります。その学習効果は絶大でした。そして、「変だな。まずいんじゃないの」と思われることは、今度の担任は、見逃さずに指導するんだということ。そして、その指導は、“頭ごなしに怒鳴らず、ちゃんと話を聞いてから、当人が自ら気づくようなやり方”であることを認識する機会となったのです。

前置きが長くなりましたが、私は若い頃、「学級経営」という言葉に、違和感を覚えていました。「経営とは、企業が利益を追求するための営みである。教育の目的は“人格の完成”なので、経営という考え方や手法は、子どもの成長にはなじまないのでは」と。今振り返ると極めて浅い解釈をしていましたし、学校現場における「経営」の本質を理解していませんでした。

「学級経営」とは、“その学校の教育目標を実現するために学級を基本の組織として展開される教育活動の計画、実施及び評価など学級担任が関わる全ての活動”をいう。「学級経営」の内容は多岐にわたります。大きく括っても、学級経営計画、学習環境、家庭との連携、学習指導、生徒指導、進路指導、学級事務などに関わることもあり、さらにたくさんの内容に細分化されます（北海道教育委員会「学校教育の手引き」参照）。

これらを意図的・計画的に進めていくことが求められますが、それを文章化したものが「学級経営案」です。若い頃は、これを作成するのに苦労しました。何を書けばよいのが今一つわかっていなかったのも、書籍や資料からマッチするものがないか探したのもです。でも、実態が違うので、なかなかピッタリくる文言が見つかりませんでした。結果、苦し紛れに、例文等をまねすることもままありました。

「学級担任がやることは、わかっている。見通しも持っている。学級経営案など作らなくても、ちゃんとやっていける。どうせ、作っても、たいして活用されないではないか」という思い上がった考えを持っていました。実は、自分の考えが明確ではないために、ちゃんとした学級経営案が書けない自分を擁護していたのです。

「あなたは、学級経営で、何を大事にされ、課題解決のためにどんな手立てを講じますか？」と、問われたときに、自分の言葉で、端的にわかりやすく、すばっと言えなければなりません。「学級経営案」は、大事です。そこには、担任の願いや考えが明確に表現されているからです。それを読めば、この1年、どんな考えで、何をやろうとしているのかがわかります（その教師の人間性もくみ取れます）。

そして、学級経営に当たって最も重要なことは、受け持った子ども達からいかに信頼を得るかということです。この信頼があってこそ、良質な学級経営が展開できると思っています。